

ドローン100年年表

年号を覚えるより、「それで何ができた？」をたどってみよう。

A3横1枚／A4縦2枚の見開きに対応
情報の基準日：2026年9月5日
SkyLink Japan

3つの流れ	1910～40年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代	
世界の技術史	1918 → 1922 無人で飛ぶ実験。 別の流れで、有人の 4ローター機も飛行。 形と無人化は別の歴史	技術を育てる 感じる・考える・ 動かす部品を、 小さな機体へ。 部品がそろうのを待つ	1991 → 1995 Li-ion電池が市販。 MEMSセンサーの 工業生産も始まる。 軽く、小さな部品へ	2000 GPSの意図的な 精度低下を停止。 民間利用は以前から。 屋外の位置が分かる	2010 → 2013 AR.Drone、 初代Phantom登場。 小型化と量産が進む。 小型機が身近になる	2021 火星でヘリが飛行。 地球から離れても、 自分で動きを保つ。 遠い惑星でも試せた	キミの歴史と重ねよう キミが生まれた年の ドローンは？ わたしが生まれたのは 年 そのころ、できたことは？ 近くの年から調べてもOK。 調べた資料・サイト その次に、何ができた？
日本の歩み	問いを持とう 空から見たり、 物を運んだり。 だれの役に立つ？ 使う目的を考える	1987 → 1989 1987：R-50完成。 1989：キーエンスの ジャイロソーサ発売。 無人機の用途が広がる	1991 無人ヘリの 空中散布を現場へ。 人の作業負担を減らす	仕事の道具として 操縦の訓練や整備も、 機体と一緒に必要。 続けて使う土台を作る	2016 → 2019 農業で新しい機体。 測量・設備点検も、 手順の整備が進む。 仕事に使える品質へ	現在 撮る・測る・運ぶ。 実証と実際の運用が 分野ごとに進む。 続けて使えるか考える	
制度の年表	この段の読み方 制度が動き始めた 「施行」の日を見る。 発表・公布の日とは別。 日付の意味を分ける	— この年表では 省略した期間。 「ルールなし」ではない	— 使い方が変われば、 必要な約束も変わる。 人と空を分け合う	— 使い方に合わせて、 制度が追いつき、 見直されることも。 ルールも育っていく	2015.4 → 12 4月：官邸屋上で ドローン発見。検討へ。 12月10日：改正航空法 施行。 事件を受けルール整備	2022.6.20／12.5 6月：登録、100g以上 リモートID原則搭載 12月：技能証明・認証 条件付きでレベル4へ	

※年代の間隔は一定ではありません。主要な節目を抜粋しています。部品技術の進歩には、スマホ以外の産業も関わっています。

読み方の約束 1922年の4ローター機は有人です。1991年の電池はLi-ionの市販開始で、LiPoの発明年ではありません。

リモートIDは免除の条件もあります。レベル4は第三者上空で行う補助者なし目視外飛行で、人・機体・運航などの要件があります。100g未満でも無条件には飛ばせません。

ご家庭・学校・科学クラブで、学習目的の印刷・配布ができます。 A4見開きはPDF印刷のポスター／分割で、倍率90％程度を目安に2枚となるよう調整してください。

主な出典 米国空軍の飛行記録／Smithsonian／ヤマハ発動機・農林水産省／Bosch／ノーベル財団／GPS.gov／Parrot・DJI／国土地理院／国土交通省／NASA／JAXA／首相官邸。

参照：[国土交通省レベル4ポータル](#)・[GPS.gov](#)・[JAXAの開発史](#)・[官邸事件と制度整備](#)。詳細はブログ本文に掲載。

SkyLink Japan | 技術と暮らしをつなぐ、親子の調べ学習